

基準9．教育研究環境

9 - 1．教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

《9 - 1の視点》

9 - 1 - 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

9 - 1 - 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

(1) 9 - 1の事実の説明（現状）

9 - 1 -

・本学は、図9 - 1 - 1及び表9 - 1 - 1、2のような教育環境を有している。



図9 - 1 - 1 中部大学キャンパス配置概要

中部大学

表9-1-1 大学設置基準との校地・校舎の比較

校地面積	設置基準上必要面積	校舎面積	設置基準上必要面積
582,146.60㎡	74,700.00㎡	142,657.20㎡	67,634.70㎡

表9-1-2 中部大学の主要施設概要

春日井キャンパス

名称	延べ面積 (㎡)	地上 (階)	地下 (階)	主要施設
1号館	3,450.60	3		理事長室・学長室・事務局(教務部、学生部、学務部、財務部)
2号館	8,118.47	4		工学部教員研究室・実験室・ゼミ室・講義室 事務局(キャリアセンター、広報部、管財部、総務部、渉外部)
3号館	2,640.89	2		工学部実験室、デジタルラボ・生産技術開発センター・分析計測施設
5号館	9,891.48	4		工学部教員研究室・実験室・ゼミ室・講義室、メディア教育センター第1部門
6号館	2,739.56	5		工学部教員研究室・実験室・ゼミ室・講義室
7号館	4,748.43	10		工学部教員研究室・実験室・ゼミ室
8号館	3,280.66	2		工学部実験室・ゼミ室、CAD教育施設
9号館	8,478.34	5		講義室・工学部教員研究室、学生ラウンジ、エクステンションセンター
10号館	6,820.30	6	1	講義室・ゼミ室、学生ラウンジ・ コンピュータコンサルテーションセンター
11号館	2,446.30	4		工学部教員研究室・実験室・ゼミ室・講義室
12号館	1,558.41	1		第一学生ホール・学生食堂
15号館	804.00	2		講義室
16号館	5,744.06	10		総合研究センター(学術研究高度化推進事業、工学部創成科目)、事務局(研究支援センター)
17号館	906.71	2		工学部教員研究室・実験室・ゼミ室
18号館	2,614.04	2		材料構造実験施設
19号館	3,064.79	3		語学センター、LL教室、SILルーム、製図室、第二学生ホール・学生食堂
19号北館	926.16	3		工学部製図室
20号館	5,575.56	12		国際関係学部教員研究室・ゼミ室、語学センターメディア教室、日本語教育センター
21号館	5,340.25	6		経営情報学部教員研究室・ゼミ室・講義室
22号館	2,830.37	3		学術情報センター実習室・自習室、講義室
23号館	1,691.25	3	1	リサーチセンター(工学部実験室)、中部高等学術研究所
24号館	1,834.10	3		学術情報センター
25・26号館	8,539.63	4	1	人文学部教員研究室・ゼミ室・講義室、第三学生ホール・学生食堂、学生ラウンジ
27号館	1,811.19	4		人文学部講義室、メディア教育センター第2部門
29号館	2,016.21	5		クラブサークルプラザ
30号館	6,512.35	11	1	応用生物学部教員研究室・実験室・ゼミ室・講義室
31号館	1,104.41	2		応用生物学部実験室・ゼミ室・講義室
32号館	2,055.94	5		応用生物学部実験室
33号館	3,624.99	7		応用生物学部実験室・ゼミ室・講義室
36号館	985.14	2		工学部実験室・ゼミ室
50号館	8,822.14	12		生命健康科学部教員研究室・実験室・ゼミ室・講義室
51号館	5,291.24	4		生命健康科学部実験室・ゼミ室・講義室・看護実習室、学生食堂、学生ラウンジ

名称	延べ面積 (㎡)	地上 (階)	地下 (階)	主要施設
体育館	5,270.95	3	1	メインアリーナ、サブアリーナ、クラブ室
武道館	1,185.60	1		武道場(柔道、剣道、少林寺拳法、空手、合気道)
図書館	8,231.80	3	2	図書館、民俗資料室、アセンブリホール
体育文化センター	3,230.41	3		屋内プール、ウエイトトレーニング室、卓球室
メリアルホール	1,473.96	2		講堂、三浦幸平記念室
キャンパス プラザ	3,729.71	3		国際交流センター、学生相談室、学生ラウンジ、食堂、売店、書店
立体駐車場	12,071.40	4		延715台収容

名称	延べ面積(㎡)	概要
屋外体育施設	41,896.60	メイングラウンド、サブグラウンド、野球場、テニスコート、アーチェリー場、弓道場

名古屋キャンパス

名称	延べ面積 (㎡)	地上 (階)	地下 (階)	主要施設
名古屋 キャンパス	9,437.37 内大学部分 2,010.11	9		(5-8階)大学院経営情報学研究科、国際人間学研究科 講義室、ゼミ室

その他

恵那研修センター(敷地面積 344,594.00㎡)

名称	延べ面積(㎡)	主要施設
研修センター	3,343.61	研修所、宿泊施設、体育館、研修棟
屋外施設		グラウンド、野球場、テニスコート、ゴルフコース、トリムコース

新穂高山荘(敷地面積 16,133.02㎡)

名称	延べ面積(㎡)	主要施設
山 荘	1,825.63	本館、別館、不言山荘、研修棟、浴室棟

以下に、主要施設の概要を示す。

図書館

- ・地下2階地上3階建、延べ面積8,231.80㎡に約800席の各種閲覧室を備えている。蔵書数は大学全体で約53万冊、図書館にそのうちの約35万冊を所蔵し、約18万冊を1階から3階の開架部分に配架している。
- ・所蔵している資料の情報はデータベース化され、館内に設置されたOPAC(オンライン目録)検索専用PCを利用して必要な資料を探ることができる。また、学内LANやインターネットを利用して、研究室や自習室、自宅からも資料の検索が可能となっている。
- ・平成16(2004)年には携帯版ウェブサイトを開設し、インターネット対応の携帯電話から図書館資料の検索や、開館情報の確認ができる。
- ・視聴覚資料も整備し、語学・音楽用テープ、CD、DVD、ビデオなどを専用ブースで視聴することができる。このほかに、館内には共同研究室、AVホールなどの施設もある。

体育施設

- ・春日井キャンパスには、講堂を兼ねる2つの体育館(メインアリーナ・サブアリーナ)、室内プール、2つのグラウンドと野球場、4面のテニスコートの他にダンススタジオ、武

中部大学

道館、弓道場、アーチェリー場が設けられている。

- ・「恵那研修センター」には、体育館、グラウンド、野球場、テニスコート、ゴルフ場（6ホールショートコース）が整備されている。
- ・これらの体育施設は、授業や課外活動などで有効に利用している。

情報サービス施設

- ・「メディア教育センター」は、最新の映像・音響・編集の3スタジオを中心に授業で使用している。スタジオには最新のバーチャルリアリティ・システムを導入し、3D映像を扱う多彩な画面構成が可能である。また、ノンリニア編集機を使いビデオ製作が行われる。
- ・「学術情報センター」には、実習室、自習室があり、約500台のPCが設置されている。授業時における実習室の活用はもとより、夜間も開放し学生の活用度は高い。
- ・キャンパス内にはネットワークが布設され、全研究室と多くの教室等に教育用情報コンセント(3,500個)、無線アクセスポイント(131箇所)が設置されている。
- ・外部IN接続は、SINET(100Mbps)とISP(20Mbps)のマルチホーム接続を双方向でサービスをしている。

研究施設

- ・学内に9研究所と1センターを有し研究環境の整備が図られている。
中部高等学術研究所、総合学術研究院、総合工学研究所、産業経済研究所、国際人間学研究所、生物機能開発研究所、情報科学研究所、生命健康科学研究所、現代教育学研究所、生産技術開発センター
- ・「文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業」にこれまで11プロジェクトが採択され、対応する研究センターが学内に設置されて、優れた研究環境の整備が進められている。
- ・「総合研究センター」では、大学の研究成果やシーズを企業が抱える課題や難題に結びつけるコーディネーター的役割で、多岐分野にわたる研究開発事業を推進している。本学が保有する最新鋭の機器、装置の使用や企業の研究室として「総合研究センター」の「インキュベーションルーム」を使用することも可能である。

学生寮

- ・学生寮は全国各地から入学する1年生男子に限定し個室タイプのものを用意している。男子留学生寮、女子留学生寮もあり、入寮定員数は174人になる。

9 - 1 -

- ・以上のように多くの施設設備を有しているが、その維持・管理については管財部が施設管理の責任を担っている。学内清掃業務のほかエレベーター、空調・消防設備、電話交換機等の保守点検については専門業者と委託契約を結び、関係法令を遵守し適切に維持・管理している。

(2) 9 - 1 の自己評価

- ・大学設置基準を上回る校地、校舎を整備し、その施設・設備は質及び量の両面において教育課程の運営に十分なものであり、これらの施設・設備は良好に整備され有効に活用されていると判断している。
- ・ほとんどの講義室、ゼミ室にはAV教育機器が整備されている。

- ・図書館は教育・学習と研究を推進するための情報資源である図書や学術雑誌等を集中的に提供するセンターとして設置され、内容、規模ともに充実した施設として、活用されている。また、開館日数は年間約280日に達しており、夜は21時までの利用体制を整えている。開館時間や日数を含め、利用者側に立った環境を整備している。また、閲覧席を全館的に見直し、リニューアルした結果、利用マナーが格段に向上した。館内の利用マナーと静寂に関しては、満足度調査にも直接反映した数値が出ている。
- ・地域に根ざす3大学コンソーシアム（中部大学、愛知学院大学、南山大学の3校の図書館コンソーシアム）並びに春日井市立図書館との連携は、着実に実績をあげている。
- ・メインとサブのグラウンドは、全天候型に整備し、サッカー、ラグビーなどのほか、各スポーツ大会の会場として地域にも開放している。夜間の利用も可能になっている。「中部大学全学学科対抗スポーツ大会」も毎年このグラウンドで開催している。
- ・「クラブ・サークルプラザ」を中心に、各種クラブの部室、集会室、多目的室などのほか、コインランドリーやシャワーブースなども完備している。
- ・「学術情報センター」は学内の情報サービスのための施設として、常に最新の環境を十分に整備している。とくにキャンパスネットワークは高度な機能を提供しており、今後ともこの基盤に立った整備を行っていけばよいと考えている。
- ・研究所や研究センターも適切に設置され、研究環境もよく整っている。

（3）9 - 1の改善・向上方策（将来計画）

- ・今後も教育研究環境に関する学生・教員の要望を十分把握し、施設の整備を図っていく。
- ・9号館、10号館を中心に講義室の稼動状況は非常に高い水準にあるが、演習・ゼミが特定の曜日、時限に集中して講義室不足が指摘されており、その対応を図っていく。
- ・PCデータを投影できる設備、現物提示機器、ネットワークを使用して教育が行える設備内容の一層の拡充・整備を図っていく。
- ・図書館では、学部増設に伴い資料が増加して書架スペースの不足が生じており、施設増築を視野に入れる時期になった。また増設学部や教養関連分野等の図書資料と予算のバランスが失われているため、これを是正するための作業に着手している。
- ・本学の情報化の将来計画等を策定する「情報化推進委員会」のもとで、学内各所の情報サービス施設の横の連携を高めていく。

9 - 2 . 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

《9 - 2の視点》

- 9 - 2 - 施設設備の安全性が確保されているか。
- 9 - 2 - 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

（1）9 - 2の事実の説明（現状）

9 - 2 -

- ・火災、震災その他の災害の予防及び人命の安全並びに被害の拡大防止を図るため、「中

中部大学

部大学防災管理規程」を定め、「防災管理委員会」を置き、安全の確保に努めている。具体策は「防災管理委員会」の専門委員会である「防災対策協議会」において検討し、毎年計画的に防災訓練、安全点検等を実施している。

- ・建物の耐震化については、平成9(1997)年に9号館を全国に先駆けて既存の建物をそのまま免震化する「免震レトロフィット」による免震構造の建物に改修して以来、旧建築基準で建設されている建物を順次耐震診断し、補強工事を計画的に進めている。
- ・事業所等でのアスベスト被害が社会的問題化してきていることに鑑み、使用状況の現地調査を行い、適切な処置を完了している。
- ・AED(自動体外式除細動器)を、各学部と主要な場所に合計10台配置し、緊急時の安全体制を整備している。
- ・バリアフリーのキャンパスづくりにも取り組んでいる。
- ・特別管理産業廃棄物(薬品)、特別管理一般廃棄物、感染性廃棄物については、法令に基づき専門業者と委託契約を結び、適切に管理している。
- ・キャンパス内の全ての建物は、指定場所以外は禁煙とし、分煙を進めている。

9 - 2 -

- ・一般のゴミについては、6分別での回収とリサイクルに取り組んでいる。産業廃棄物についても7分別を行い資源回収を行っている。また古紙回収を定期的の実施している。
- ・「C.U.P.(Clean Up Project in Chubu Univ.)」は、中部大学の学内マナーを守る学生主体のボランティア団体として、資源の分別回収、歩きタバコ、ポイ捨て禁止等と呼ばけるとともに、清掃キャンペーン活動を実践している。
- ・講義室や学生ラウンジなどには、ノートPCを接続する情報コンセントを配置し、E-MailチェックやHP(ホームページ)閲覧の他、シラバスの閲覧や履修申告も可能にしている。
- ・学内には、学生が利用できる約1,100台のコンピュータを配置し、授業や自習等に利用することが可能になっている。
- ・「コンピュータコンサルテーションセンター」では、ITを活用した教育活動や「e - 授業」、「e - キャンパスライフ」の推進に向け、情報スキル向上の支援やパソコン関連相談などで学生生活をサポートしている。
- ・「三浦幸平メモリアルホール」は、教育・研究上の効果を最大限にあげ、社会・産業界との連携強化を図ることを目的に設立された。600人収容の多目的ホールと創立者三浦幸平の大学創立の想いと業績をしのび、学園の歴史を知ることができる資料室で構成されている。総合科目、キャンパスコンサートや企業説明会などに活用されている。
- ・「恵那研修センター」は、新入生の合宿研修、クラブ活動などに利用されている。
- ・「新穂高山荘」は、敷地内に温泉があり、1年生を対象とした「フレッシュマンキャンプ」のベースとして、またゼミやクラブの合宿にも利用されている。

(2) 9 - 2の自己評価

- ・防災・省エネの観点から法人の全施設を対象に安全・省エネ点検を実施し、快適な教育研究環境づくりに努めている。このような活動をとおして、キャンパス全体に安全・環境に関する意識の定着を図っている。

- ・耐震補強工事を学生利用度の高いものから計画的に推し進めるほか、樹木の保全、衛生面などに配慮した環境整備を実施している。
- ・6分別による資源回収や産業廃棄物の分別を行い、ゴミの減量、リサイクルに積極的に取り組んでいる。
- ・「学術情報センター」では、コンピュータを配置した部屋はそれぞれ独立しており、学生、教職員が自主的に活動できる施設設備が整備されている。さらに状況に応じたサービス体制が取れるため、安全性とともに快適に学習できる環境を提供している。
- ・学生ラウンジを学生が談話や自習などに自由に利用できるよう、また、学生食堂を営業時間外もラウンジとして開放できるよう改修を進め利用度をあげている。

(3) 9 - 2の改善・向上方策(将来計画)

- ・キャンパス将来計画に基づき、キャンパスの安全・衛生環境の保全に努め、学生に快適な学習環境を提供するため、更なる努力を行っていく。
- ・耐震補強工事については、今後とも順次整備を進めていく。
- ・バリアフリー化については、今後とも整備を進めていく。
- ・古くなったトイレなどは、時代に適合した要望を受けて今後も順次更新していく。

[基準9の自己評価]

- ・教育研究活動を推進するために必要な施設設備が適切に整備され活用されている。
- ・演習室・ゼミ室の授業科目編成上による講義室不足と設備内容の一層の向上を目指した整備を行っていく必要がある。
- ・情報サービスは適切に機能している。
- ・学術情報センターが提供するネットワーク環境は適切に機能している。
- ・学生の実験実習環境は適切に機能している。
- ・学生の自主的活動の場が整備されている。
- ・耐震補強工事については、順次進めているが、一部未改修の建物がある。

[基準9の改善・向上方策(将来計画)]

- ・施設設備の一層の整備拡充を図り、教育研究のすぐれた環境の構築に努力していく。
- ・安全と衛生面の確保については、今後更なる努力の中で組織的取り組みを活性化し、学生、教職員が快適な学習研究が行える環境の保持に努めていく。
- ・学生の課外における活動を更に活性化するための工夫を重ね、必要な施設設備の整備に努めていく。
- ・耐震補強工事については、年次計画に基づき進めていく。
- ・講義室の設備内容の更なる向上を目指し整備を進めていく。
- ・図書館については、学部を増設が進むため既存施設の増築を検討する。
- ・開学以来、周辺の里山の自然を保全しながら学内の緑を整備してきたが、今後も更に快適なキャンパスづくりに努力をしていく。